

会議録

会議名	平成28年度第3回小金井市児童館運営審議会		
事務局(担当課)	児童青少年課		
開催日時	平成29年3月14日(火) 午前9時30分～午前11時30分		
開催場所	小金井市前原暫定集会施設C会議室		
出席者	委員	橋本会長、関委員、吉田委員、布目委員、松田委員、岩重委員、山田委員、中川委員	
	その他	(欠席：新井委員、山中委員)	
	事務局	大澤児童青少年担当部長、伏見課長、田中係長、大嶋主査、山田主任、中村主事、東児童館(マネージャー木下職員)	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2名
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 東児童館業務委託評価報告書について</p> <p>(2) 報告事項：本町児童館2階改修工事予定の概要について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 平成29年度小金井市児童館事業計画について</p> <p>(2) 児童館事業について</p> <p>① 今後の児童館事業のあり方について</p> <p>② その他</p> <p>4 閉会</p>		
会議内容	<p>2 報告(質疑含む)</p> <p>(1) 東児童館業務委託評価報告書について</p> <p>① 総合評価はB。今の小金井市の児童館の形態の中での運営においては、利用者からのアンケート結果も含めて、高く評価する。事前送付したことから、本日は詳細説明が必要な部分や、ご意見、ご質問等についてはご指摘いただき、お答えしたい。なお、本日の審議会での委員の皆様のご意見も踏まえて、3月末までに児童館運営検討委員会で東児童館業務委託評価報告書を完成し、ホームページで公開、次年度の再選定に際して参考として活用する予定。(伏見課長)</p> <p>② 個別評価Cの項目は、利用者アンケート結果からだけではなく、総合的な業務内容でのCと考えてよいか。また評価の理由はなにか。(岩重委員・関委員)</p> <p>→お見込みのとおり、総合的な業務内容からの評価である。利用者アンケート以外に、職員の定着度や夜間開館等に伴う近隣住民への配慮、事務処理等も含まれている。(田中係長)</p> <p>③ 委託業者の選定の条件の1つとして、直営館と同等の運営基準の活動、業務委託の活動、プラス独自性が必要だということか(吉田委員)</p> <p>→お見込みのとおり。(橋本会長・田中係長)</p> <p>(2) 報告事項：本町児童館2階改修工事予定の概要について</p> <p>9月以降、ほんちょう学童保育所の分所機能を、児童館2階西側の児童</p>		

館集会室兼学童保育育成室で行うため、5月中旬～7月に改修工事を行う。改修後は時間帯で区切って利用者を変更する。(伏見課長・田中係長)

→児童館が2階西側の部屋を利用できる時間が減ることで、児童館来館児童に対して、例えば上の原公園でボール遊びができるようにするとか、何か、遊び場確保の代替案を考えているか。(中川委員)

→児童館施設が小さくなることへの具体的な代案は、近隣の本町小学校に校庭の開放等を含めてお願いをしていく予定だが、現状お示しできるような代案はない。(伏見課長)

→床面積として児童館も学童保育所も窮屈になるが、解決策があるのか。今年度は仕方がない、来年度も仕方がないというのでは、双方の利用者が困ると思うが、どう考えるか。(吉田委員)

→児童館も学童保育所もお互いにある程度、融通をきかせていかないといけない苦しい選択。夏休みは学童利用の人数が少し減るということも当て込んでいる。また、仮に新たに学童保育所を建てるとしても、2年、3年という期間がかかる。当然、考えていかなければならない課題だと担当として認識している。(伏見課長)

(3) 児童館フェスティバルについて

昨年11月のこがねい宮地楽器ホールでの開催状況について、来場した委員より感想、報告。(関委員、中川委員、山田委員)

3 議題

(1) 平成29年度小金井市児童館事業計画について

大きな変更はないが、東児童館で実施した利用者アンケートで95%以上が通年で18時まで拡大された開館時間を「ちょうどよい」か「短い」と回答していることから、他の直営館においても学校長期休業期間を含めた「開館時間の拡大」について、平成29年度に1年間かけて検討を予定している。(田中係長)

(2) 児童館事業について

① 今後の児童館事業のあり方について

基本方針は、ほぼ10年が経過した。直営館も委託館もニーズに応じてよくやっているの、それを維持したいが、一方で、新しい知恵、発想を得る機会はどうなのか。例えば改修工事で館のスペースが狭くなったときの工夫や新しい時代に対応した事業内容はどうか。難しいのは、現場の創意工夫を大事にしながら進めないと、よそのまちでやっているからやれという方法ではうまくいかない。審議会のあり方に対する意見でもある。(橋本会長)

→教育委員会も含めた全体の中での役割分担を考えていくか。放課後の居場所として、放課後子ども教室や学童との関連はどうか。また、アレルギーや発達障害への対応などはどうか。STEAM教育など、次の世代に向けて大事な科学技術など将来に向かう内容を取り込めないか。(松田委員)

→小金井市の放課後子ども教室は活動がボランティアなので児童館と

	<p>は違う気がする。児童館事業にサイエンスを取り入れれば子どもは食いつくが、1つのプラスアルファの要素。今の子どもたちには縦のつながり、上の学年と遊んでいたらボールを取られた等のやりとりも必要。そのような要素をなくさずにうまく融合していければよいのではないか。(吉田委員)</p> <p>→職員研修は困難を抱えたお子さんや家庭に対してのソーシャルワークの技術ということで、発達障害も含め実施している。また、食物アレルギーも、AEDなどと同様、専門家を招いて研修をしている。(大嶋主査)</p> <p>→STEAM教育関連を事業に取り入れるためには予算も必要ではないか。市内の学芸大、農工大、法政大の学生の協力を得られないか。(関委員、布目委員)</p> <p>② その他</p> <p>4 閉会</p> <p>※ 閉会后、7月以降の次期委員について、4月1日市報で公募委員枠3名の募集が実施される旨の案内。</p>
配付資料	<p>① 東児童館業務委託評価報告書(案)</p> <p>② 本町児童館2階改修工事予定の概要</p> <p>③ 平成29年度小金井市児童館事業計画(四館合同事業・各児童館事業)</p> <p>④ 児童館だより</p>
伏見児童青少年課長	<p>それでは、はじめさせていただきます。本日、担当部長は別の公務が入っていて、後ほど出席させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は、お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。まず、資料につきまして事務局のほうから説明させていただきます。</p>
田中児童青少年係長	<p>おはようございます。資料の確認をさせていただきます。本日、机の上にお配りしたものでございます。次第が1部。前回の傍聴者の方からいただきました感想メモが1部、それと児童館だよりでございます。</p> <p>それと、事前に東児童館業務委託評価報告書(案)、本町児童館2階改修工事予定の概要、平成29年度小金井市児童館事業計画基本方針4館合同事業各児童館事業等が束ねられたものということで、3種類の資料を事前にお送りさせていただいてございます。あらかじめお目通しをお願いしてございますけれども、ご不足等ございましたら、事務局までお申しつけいただければと思います。以上でございます。</p>
伏見児童青少年課長	<p>資料の過不足がなければ、会長、よろしくお願いいたします。</p>
橋本会長	<p>改めまして、おはようございます。きょうは今期最後の審議会ということで、今年度第3回の審議会ですが、きょうは小金井市児童館事業計画、来年度の事業計画が主な議題になっています。</p> <p>その前に、報告が2つありまして、資料確認していただいたように東児童館のアンケート結果、それから、それを受けた評価報告書の件が1つ。それから、</p>

	<p>本町児童館の2階学童部分の改修工事予定。それぞれをご説明いただいた上で、皆様のご意見を少しいただきたいなと思います。</p> <p>それでは、最初に東児童館の業務委託評価報告書について、伏見課長、お願いします。</p>
伏見児童青少年課長	<p>それでは、東児童館業務委託評価報告書（案）について、前回の児童館運営審議会でもアンケート内容の件でご協力いただきましたが、こちらについては、児童館運営検討委員会で検証・作成いたしました評価報告書の案をお送りさせていただいておりますので、事前にお読みいただいていることを前提に、要点についてのみ説明させていただきます。</p> <p>今回の評価につきましては、本報告書の2ページにあるとおり、1として、事業評価の目的は、平成25年度から今年度10月までの期間を対象として検証を行ったもので、東児童館のみを対象として事業の質と向上に資することを目的としております。</p> <p>2として、事業評価の内容につきましては、委託の契約の仕様のとおり実施されているかを含めた、記載のあるア、イ、ウの3項目としております。</p> <p>次に、3の評価の基準でございますが、AからEの5段階としております。</p> <p>4番目として、評価方法については（1）の現地評価、並びに（2）で前回の当審議会でもご議論いただいたアンケートの集計結果を基本としているところです。</p> <p>3ページから11ページに評価のシートを載せておまして、12ページ以降に資料としてアンケート結果等を載せております。評価シート、3ページから11ページのことにつきましては、5段階で、先ほどお話ししたとおり、あらわしておりますが、D評価、E評価というものはありませんでした。また、C評価については数項目ございますが、こちらについては各評価項目の総合評価・特記事項の欄に、理由等について記入しているところでございます。</p> <p>10ページから11ページに総合評価が載っており、11ページの末尾にありますとおり、総合評価としてはBという結果であり、「今の小金井市の児童館の形態の中での運営においては、利用者からのアンケート結果も含めて、高く評価されたものと考えたい。」と結んでおります。</p> <p>以上、事前送付させていただいておりますので、雑駁ですが説明とさせていただきます、詳細説明が必要な部分や、ご意見、ご質問等についてはご指摘いただき、お答えしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、本日の審議会の中での委員の皆様のご意見も踏まえて、3月末までに児童館運営検討委員会として東児童館業務委託評価報告書を完成し、ホームページで公開し、次年度の再選定に際して参考として活用していただく予定でございます。</p> <p>報告は以上です。</p>
橋本会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、皆様のほうからご質問を、まずいただいて、その後、何かご意見があればつけ加えていただきたいなと思います。3月末の正式な報告書にも意見の一部は反映されるということです。よろしく願いいたします。</p>

	誰からでも結構ですが。はい、中川さん、お願いします。
中川委員	3月末までに報告書を完成し、またその結果を見て、次の、来期の選定に活用すると言われたんですけど、それっていうのは、今の事業者になるかどうかというのも含めての選定になるんですか。
橋本会長	それは再公募ですので、プロポーザル方式による選考を踏むということで、今の事業者さんがまた応募なされば、それはその候補の1つとして、ほかの候補と同等に扱う、ということで、前回も再公募が行われました。今回も同じであると、そういうことですが、よろしいですか。
中川委員	業者が変わる可能性もある、ということですか。
伏見児童青少年課長	今、会長がおっしゃられたとおりで、プロポーザル方式による選考で、もう一度、事業者を改めて一から公募し直すということで、今、委託されている事業者が応募することは、決して否定はしないという状況になります。選考になりますので、今やっている事業者が選ばれるかどうかについては、選考によって決まるということになりますので、委員おっしゃられたとおり、業者が変わる、ということも十分あり得るという状況です。
橋本会長	<p>ですから、きょうの我々のご意見も、そういうことを踏まえてご意見やご質問いただければいいかなと思います。</p> <p>前回、私もこれを拝見しましたところ、事務局からご説明があったように、Eという悪い項目はなくて、Cとしては一部気になるというふうに評価者が判定したものもありますけれども、記述のところや、あるいは補足資料のアンケートを見ると、大体、高い評価が際立っている印象があります。それは事務局のほうでも、おおむねこれは高い評価を得たものだと思っているというご説明がありました。委託というやり方で、ちゃんとした業者を入れるというのは、本当は難しいことでありまして、ほかの学童保育や保育園でも、これは本市のことを言っているわけではありませんが、全般的に、全国的に苦労されているという実態はあります。ですから、このような評価をまずきちんとしてくださったことはありがたいことだなと思いますし、この報告書の中で記載されたような問題があれば、次は問題が起こらないように、どういうふうに仕様にするか。仕様書というのは、応募者に向けてのガイドラインで、私たちの市からどういうふうな児童館をつかってほしい、あるいはどういう条件で引き受けてほしいというスタイルを応募者に提示するものです。それは事務局の中で、しっかり練ってくださるものですがけれども、この審議会としても気づいたことは意見を言わせていただくということで、過去も進んできていると思います。</p> <p>何か、中身に関するご質問は。関さん。</p>
関委員	9ページの上のほうですけれども、「近隣住民への配慮が以前よりもバランスを欠いている面が見受けられることから」というので、これはどういったことなのでしょう。
橋本会長	どういったことなのかということは、事務局に伺わないとわからないですかね。田中係長。
田中児童青少年係長	こちら、評価理由でございましてけれども、利用者へのアンケート結果からは特に問題がないという形で好評なご意見をいただいたのですが、ただ、夜間開

	<p>館等の関係もございまして、周辺の住民の方からは、騒音とか、そういったものの関係で、やはりクレームはいくつか寄せられているんです。</p> <p>寄せられているものに対しての対応は、個別のケース毎にちゃんと対応していただいているのですが、では今後、どういう改善をしていく必要があるのか、とか、そういった専門職の現場職員に求められる内容に関する提案や新たなアイデア等について、市が読み取れるような記載がされた報告は、事務局に対してなされていなかったんですね。ですから、そこまで総合的に考えたときに、Bというわけにはいかない、ということでC評価という判定をさせていただいてございます。以上です。</p>
橋本会長	報告書のあり方、報告の仕方が、というご説明ですね。
田中児童青少年係長	はい。報告の仕方と、その後の改善に向けての取り組み提案、という部分で、ちょっと市との連携に問題があるのではないかと、というところで、マイナス判定させていただいてることになります。
橋本会長	これはおそらく、発注側の、行政としての反省も込めた部分もあるだろうなと思いますけれど、あまり詳細については、必要であれば議論していただいて結構ですが、今の説明でご了解いただけるのであれば、あとは、そうなのかということで、次の仕様に反映していただければ、と思うんですが、関さん、いかがでしょうか。
関委員	はい、夜間開館のクレームなど、ということもわかったので。
橋本会長	はい。私もここはわからなかった部分でした。ほかにいかがでしょうか。岩重さん、お願いします。
岩重委員	岩重です。同じように5ページ、6ページで、個別評価Cがついているのは、アンケート結果からだけではなくて、総合的な、業務の内容でCがついてしまったという考えでよろしいでしょうか。職員の定着度とか、その辺のあたりで、利用者から不満が上がっているとは思えなかったもので、はい。
橋本会長	5ページ、6ページの。はい。田中係長。
田中児童青少年係長	はい、ご指摘のとおりでございます。今の部分は、アンケート結果によるもの、というよりは、児童館の管理運営、市への報告という視点からの評価、ということになります。
岩重委員	はい、わかりました。
橋本会長	はい。ほか、いかがでしょうか。
中川委員	総合評価のところ、11ページですけど、直営館と比べて一定のレベルを保っているが、悪い言い方をすれば直営館と横一線にある、という言葉のところなんですけど、直営館だと枠みみたいな縛りがあるという意味で、直営館じゃないから、もっと独自性を発揮すればよいのではないかと、ということなんですけど。何か、逆に市の児童館事業に縛りがあるからできない、でも、直営館でなければ自由に独自性を発揮することも、もっとできるはず、みたいな意味なのかなと思ったんですけど。だから、直営館は縛りが多過ぎるのかなと、ちょっとその言葉で思ったりなんかしたんですけど。そこの違いというのは。
橋本会長	ちょっと私もよくわからなかったです。田中係長、お願いします。

田中児童青少年係長	<p>はい。直営館と比して、といった場合に、直営館に縛りがあるということではないですけれども、あくまでも行政がやっている事業になりますので、例えば開館時間とか、消耗品ひとつとっても、ある程度、限界はございます。当然、事業の内容につきましても、基本的には予算の範囲内ということになります。</p> <p>例えば指定管理制度であった場合については、ある程度、事業に必要なものについて、一定の指定管理者の裁量の範囲内でやっていただく、ということになります。今の東児童館は、あくまでも事業の委託でございます。運営基本方針による方向性や、消耗品、備品、施設修繕などの費用につきましては、市が受け持つことになりますので、どうしてもその枠というものは、前提としてございます。後段、5行目以降のところの、独自性の捉え方について意見が分かれるところであるが、指定管理者制度のもとでの運営ではなく、直営館と同じ運営基本方針に基づいた事業の委託であるという、その部分の表現とご理解いただければ、と思います。</p>
橋本会長	いかがでしょうか。中川さん、いかがですか。
中川委員	そういう仕組みがよくわからない。何かすごく縛りがあるイメージだと思ったので。
橋本会長	縛りがあるイメージですか。
中川委員	イメージが。何か、独自性をもっと発揮すべきみたいな言葉が……。
橋本会長	<p>民間事業者にお任せしているので、本当は独自性を期待している部分があって、元々、委託が提案された児童館運営審議会の答申においても、そういうふう書いてあったんですが、ただ、これは難しいところですね。</p> <p>いろいろ市の条件があって、発揮できない部分があるとすれば、これは、その法人への委託の評価という、今回の評価の枠になじむのかなという気がしないでもないんですが。</p> <p>今回の評価は東児童館への評価であり、直営館のことは評価しないということになっているので、そもそも直営館との比較をしていいのかどうか、これは皆さん方のご意見をいただきたいところなんです。その辺はいかがかなと思います。</p> <p>それと、あと、岩重委員からもさっきご質問があった、運営にかかわることは、どこまで評価になじむのかな、と。市への報告部分も大事なお仕事ですから、当然、評価されるべきだろうな、とは思いますが、何とも難しい部分もあるのかなという気もいたします。この辺についても皆様のご意見をいただきたいところですね。ほか、いかがでしょうか。はい。</p>
岩重委員	<p>岩重です。今の山田さんの、児童館が横一線になるというのは、以前にももらった、この1年の歩みという、各児童館の取り組みについての報告書を見ても、どこも同じようなことしか書いてなくて、実はここに載ってないことをやっているのではないかなと思っていただけですけれども、この報告書自体が、同じような形式にするために書いているのか、独自の活動が、実はあるのかということところがとても気になっていたもので、横一線にしななければいけないのかなというのは、ちょっと会議の中で横一線なんだろうなと思いついてしまっていたのですが。</p>

橋本会長	<p>いかがでしょうか。ほかの話題でも結構なんですけど、ちょっとここは大事なポイントかなと思いますけど、どこまで、委託のよしあしを評価するわけなんですけれども、どこまでほかの直営館と比べるかということと、独自性の発揮というところをどういうふうに評価するかというのは実は難しい問題なのかなと思いますので、ここの書き方がどこまで公平になっているかというのが、ひとつ気になるかなとは思っています。</p> <p>この辺は、きょう、それを調べるという場でもありませんし、また、調べる時間ありませんので、これはそういう疑問もあるということで丸めておいてもよろしいものでしょうか。</p>
関委員	<p>6ページの下の方に、独自性の発揮はプロポーザル選考時の新規提案があったけども、それ以降の各年度のときの新規提案が難しい、というふうにあって、そういうふうな、各年度、新規提案をしていかなければならないということなんだなと、知らなかったものですから、そういうことは課されていたのか、と思ったんです。これ、直営でもそうなんですか。</p>
橋本会長	<p>直営館でも、はい。新しいことをしているかということですか。</p>
関委員	<p>はい。それは、委託されている人たちだけに課されているものなのか。</p>
橋本会長	<p>ご質問はわかりましたか。田中係長。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。新規提案につきましては、毎年度の事業計画にもございますように、直営館でも可能な範囲で新しい事業を入れていっております。</p> <p>例えば、東児童館の父親参加型の事業は、これが好評だということで、直営館でも本町児童館や緑児童館でも同様な形で、その後の事業計画の中に入ってきてございます。そういった形で、直営館においても委託館同様に、可能な限りでの毎年、新規事業、改善というのは実施してございます。</p>
橋本会長	<p>関さん、いいですか、どうですか。そうですね。その一部が、私たちも、今日の資料にもある、来年度の運営方針、あるいは事業計画ということで、ご報告があるんだと思います。</p> <p>私がちょっと気にしているのは、この評価報告書というのは、完全に公開されるものですか。ウェブに載るものですか。まだこれから決めるところでしょうか。</p>
伏見児童青少年課長	<p>案ですので、基本的には、ここで了承いただければ、検討委員会で確定し、載せるような形、前回はそういう形で載せていると聞いてございます。</p>
橋本会長	<p>今、関委員がご質問なされたところの、6ページの下の方の、各年度の事業計画段階で具体的かつ実現可能な新規提案はなされておらず、というところで、かなり提案能力がないような書かれ方になっているんですけども、これは法人さんともすり合わせた、まあ、すり合わせる必要があるのかどうかは、よくわかりませんが、ただ、法人さんのほうとしての言い分というのは聞かれた上で、こういうふうなことを書かれているのかということは若干気になるなと思います。幾つかのところ、法人さんの今後に係ることもあるのかなと思いますし、横一線ということになってしまうというのが、表現上、悪い言い方になってしまうのが妥当なのか、というところが少し気になるな、という気はします。それは私の、橋本個人の感想でありますけど、皆さんのご意見を、あと</p>

	<p>はほかのところでも伺わないといけないなと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>あとは、私が気になったのは、また平成29年度に再公募をして、次の30年度からの受託業者さんを選ぶわけなんですけど、その公募作業、公募の選定作業に向けての、現在の仕様書をどういうふうに改めればいいのかというところは考えないといけないんですが、なかなか今日の段階でそこまで、私たちにする力があるのか、ちょっとそれは責任を感じているわけです。</p> <p>今のところ、どうでしょうか。何か公募の作業でこういうふうなことも考えるべきなのではないかという点、ご意見があればありがたいなと思いますし。</p> <p>それから、私も個人的に、先ほども委員から出たご質問で、5ページの職員の定着度という表現ですけど、一般的に、受託の業者さんというのは台所も苦しくて、どんどん人が代わってしまうという、全国的にはそれが問題とされている点はあるわけなので、ここの職員の定着度というのは小金井市でもとても大事にみないといけないと思っています。</p> <p>ただ、マネジャーさんが交代なさったのは、途中、ご病気で交代ということもありましたけど、交代したのは事実であったとしても、定着度という意味でCをつけると、ころころ職員がやめていく法人を小金井市がつかんでしまったような、そんなふうに見えるので、ここでCが注目を引く形になっているのは、私は気になりました。ここは、とても業者選びのときに大事なポイントなので、おそらく、ここの平成29年度の候補でも、事業者の中で職員がちゃんと定着しているか、指導員がころころかわっては、いいサービスはできませんので、それは大きな問題になるだけに、ここの職員の定着度がCというふうについていると、随分反省点になってしまうのかなという気がいたします。この辺も、再考の余地があるのであれば、考慮していただいていいポイントかなと思います。あとはいかがでしょうか。</p>
吉田委員	吉田です。委託業者の選定の条件の1つとして、直営館と同等の運営基準の活動、業務委託の活動、プラス独自性が必要だということで捉えていいですか。
橋本会長	そうですね。
吉田委員	<p>であれば、例えば、8月に実施できてなかったということがありますよね。8ページですかね。東児童館のみ8月の小学生対象行事を実施していない点があった、ということに関してですけれども、やっぱり地域のものとしては8月、夏休みというのは子どもたちの居場所がとても大切でありまして、そういう居場所づくりも、やっぱり基本はそこなのかなというふうに思うので、そこをやはり直営館と同等の活動としてやっていただきたいなというのと、あと、我々はやっぱり4館を見比べてしまうんですけども、じゃあ、利用者はどうかというと、基本1館しか見ないんですね。あちらこちらを比較しているわけではないので、やっぱりその1館が充実するというのが一番だと思います。</p> <p>ただ、児童館の活動を見ていると、本町児童館で何かやったらしい、だったら、こっちでもできるかなとか、そういう、職員の方が努力されているのを、すごく垣間見えますので、独自性が出てこないのは、逆にいいことを一生懸命取り入れてらっしゃるからかな、というふうに私はちょっと思っています。だ</p>

	<p>から、どうしても横一線になっちゃっている、みたいな。例えば、夏の夏期クラブでなにをしようとか、ふたを開けてみれば、何かまるで独自性がないように見えますけど、それはみんな一生懸命高いレベルに合わせようとしてやってくださってる、お父さんを集めたり、何かしようとかそういうのも、どこかが始めるからそれに合わせてみんなやってきてるので、それはだんだん、だんだんいい方向に向かっているのではないかなと、私はちょっとそういうふうに思ってます。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今読み上げていただいた8ページのところは、反省として書かれているというふうに見ればいいんでしょうかね。上の(1)から(6)までである中で、全体にかかわる説明なのか、補足した情報なのか。まあ、皆さんであんまり疑問がなければスルーしていいところでしょうけど。でも、これはこれで書かれているということで拝見しておこうと思います。他はいかがでしょうか。</p>
関委員	<p>8月の小学生対象行事はどれなのでしょう。8月の小学生対象行事というのが何だろう、という。</p>
橋本会長	<p>東児童館だけ実施していなかったというふうにここにありますが、ここに書いてあるとおりに理解すればよろしいわけですか。田中係長。</p>
田中児童青少年係長	<p>他の児童館ですと小学生対象に8月に行事を行っていますが、ちょっと東児童館については8月の実施がない、ということでございまして、その事実の記載となります。</p> <p>先ほどの評価でいいますと、Ⅱの5の(5)の部分ですね。各種月例行事というところでの評価で、充実度という点で、広報面において、直営館に見劣りするという評価になってございます。</p> <p>実施するかどうかは、ほかの行事とのバランスもあります。各館の事情による差を否定するものではありませんが、単純に広報面で、4館のチラシを比較したときに東児童館1館だけ事業がないよ、という月があった。それを、こういった形で記載させていただいた、ということです。</p>
橋本会長	<p>そういう意味ですね。吉田さん、関さん、よろしいですか。はい。</p> <p>それでは、他の議題もあります。この評価報告書というものは検討委員会が出された評価の結果ということなので、重くもあり、またこれが全てでもないというものでして、大いに今後参考にしていただきたい資料ですが、ここに書いてあることが、全てこのとおりかどうかという事実関係の確認は審議会としてはわからないところですが、これは、検討委員会こういう報告書をつくってくださったということで、審議会です承が必要なものではないんですね。</p> <p>この報告をしていただいて、私たちのほうで見せていただいて、それについて、意見を言わせていただいた、ということです。現状で、意見を言わせていただいた、ということでおさめようと思っておりますが、まだご発言がない方はよろしいですか。</p> <p>それでは、次の報告は、本町にある児童館の2階改修工事予定の概要について、田中係長からご説明いたします。</p>
田中児童青少年係長	<p>それでは、先週まで市議会で審議されておりました平成29年度予算に基づ</p>

年係長	<p>いて、本年5月から7月に予定されております本町児童館の工事の概要についてご説明いたします。なお、本町児童館の次年度の事業計画につきましては、工事の実施を前提に作成されておりますので、ご了承ください。</p> <p>まず資料のほう、両面刷りになっているものでご説明をさせていただきます。工期につきましては、29年5月中旬から7月下旬。工事内容といたしましては、1階集会室を図書室へ変更し、玄関脇ベビーカー置場・傘かけの新設、2階の学習室・図書室を集会室兼学童保育育成室という形に変更させていただき、資料後段4番のように、9月以降は2階西側の児童館集会室兼学童保育育成室のところを、時間帯によって利用者を変更するという形で運用させていただく、ということでございます。</p> <p>また、それに伴いまして、各種必要な工事というものが、この工事の中に入っております。</p> <p>図書室と集会室の、名称を変更につきましては、これは児童館といたしまして、国のガイドラインや条例上、集会室、図書室は必置になってございますので、児童館の図書室は常設という形で1階の現在の集会室と入れかえさせていただく、という意味でございます。</p> <p>続きまして、利用のルールのところを説明させていただきます。児童館が集会室として使用する期間といたしましては、通年ですと平日の午前9時から午後2時までですね。土曜日は9時から終日になってございます。夏休みは月・水のみが午前9時から午後2時まで、夏期クラブの実施に関しましては、この期間どうしても部屋が必要となりますので、終日児童館が使用させていただくという形になっております。それ以外の時間帯につきましては、基本的に学童保育所ということでの運営になります。</p> <p>裏面を見ていただきまして、配置図のほうでございます。大きな変更箇所といたしましては、工事の部分ですけれども、集会室兼育成室のところが大幅に工事を入れさせていただく形になりまして、学童保育所として運営する際に問題がないよう児童館の収納室を一部つくらせていただいて、そちらのほうに児童館で使っているものについては収納していくという形になっております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
橋本会長	ありがとうございます。今ご説明で何かご質問ありますでしょうか。
中川委員	9月以降ですね。で、実際、今何人いて、どれくらい増えるんですかね、9月の時点で。今、何人いて、何人になる予定なんですか。
伏見児童青少年課長	<p>ほんちょう学童については新年度に向けて88人です。ただ、現状は、ほんちょう学童と本町小学校内の2カ所でやっておりますので、大体60、30ぐらいの割合で今年度はやらせていただいております。ただ、来年度につきましては、本町小学校が使えなくなるということから、約30人分の施設が不足するということから、この児童館の施設を使わせていただくということになります。細かい人数については若干差があるかと思いますが、概ね足りない部分が約30人分というふうに考えていただければと思います。</p>
橋本会長	何か続きがありますか。
中川委員	はい、じゃあ。やっぱり30人増えるということで、今の児童館のスペース、

	<p>今の子どもたちが通っている児童館のスペースがなくなってしまう、今あった場所が。となると、そこを居心地がいいと思って来ていた子たちのスペースっていうのがなくなるわけですね。</p> <p>まあ、多少いろいろ工事が入りますけど、そのスペースの中で活動しなければいけないとなると、人数的にはとても厳しい状況になると思うんですが、そうなった場合の何か別の案というか、じゃあ児童館のスペースが少しなくなる分どこかを使うとか、例えば隣に公園があるから公園の部分で何か、今、公園はボール遊びができないけど、児童館のスペースが狭くなった分、公園でボールが使えるよという部分をつくっていただけるとか、何か、例えば別の案としてありますか。考えてらっしゃることはありますでしょうか。</p>
伏見児童青少年課長	<p>現状、児童館施設が小さくなったことによって、何か代案はというところですが、具体的にはございません。近隣の本町小学校には校庭の開放等を含めてお願いをしていく予定ではありますが、現状まだお示しできるような代案というのを持ってない、というところがございます。</p>
橋本会長	<p>質問なんですけど、裏面の2階の学童保育の部屋の部分の収納となっている部分は児童館の収納スペースにするというご説明でしたが、斜めに図がなっているのは、これはロフトか何かという意味なんでしょうか。</p>
田中児童青少年係長	<p>その部分には、現在、ミニステージみたいなものがありまして、そこを壁で覆う形で収納庫をつくる形になります。ですので、ステージの形に準じて斜めになっている、ということになります。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。</p>
関委員	<p>図面の1階のベビーカー置き場というのは、前は何のスペースだったんでしょうか。</p>
田中児童青少年係長	<p>一応、花壇がありました。ただ、北側の階段踊り場部分のほぼ真下なので常に日陰になっていまして、何の植栽も植わっていない状態でした。そこの部分をベビーカー置き場に変えさせていただく、ということになります。</p>
関委員	<p>では、自転車置場が狭くなるわけではないんですね。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。</p>
関委員	<p>また表のほうに戻るんですけども、夏休みの学童の月曜と水曜の午前中というのは、学童はどこにいかれるんでしょうか。</p>
伏見児童青少年課長	<p>今年度もそうでしたが、夏休みについては利用人数が減るので、1カ所、現在のほんちょう学童のみ、定員は60人ですけれども、その中に2所、最大で90人弱を一旦おさめていただくような形で考えてございます。同様に、この夏休みの月・水についても、1カ所でやっていただくというような形で考えてございます。</p>
関委員	<p>この表を見ると、月・水の午前中は児童館が使うことになっていますけど。</p>
伏見児童青少年課長	<p>ですから、児童館部分は児童館で使っていただく、2階のいわゆる西側部分については、午前中は児童館が使い、学童保育所の育成室は全員を、通常2クラスに分けているんですけども、現在のほんちょう学童保育所の育成室に入</p>

	っていただいて保育を行う、という意味でございます。
関委員	そうしましたら随分狭くなりますね。月・水の午前中の学童……。
伏見児童青少年課長	まあ、そうなりますけれども、お互いにある程度融通をきかせていかないといけない、という中での苦しい選択ということでご理解いただきたいと思いません。
橋本会長	夏休みの利用人数は少し減るから、ということのを当て込んでいますね。うなずいておられますので、そうだということ。とはいえ、かなり苦しいですね。
山田委員	その場合、学童の子はその部屋から、朝からずーっと出ちゃいけないって感じなんですか。1階にも行ってはいけないみたいな。60人定員の部屋に80人が、トイレは外にありますけど、ずっとそこで、という感じですか。
伏見児童青少年課長	まあ、基本的にはそういう形になりますけれども、外遊びをしたり、あるいは夏休みですので欠席もありますから、フルに90人近くが来るということは、そうはないのかなというところで考えてございます。
吉田委員	保育園とかだと児童1人に対して利用面積というか、きちんと面積を確保しなきゃいけないというのがあると思うんですけども、これは学童にもありますよね。それとも全く無視してしまっ、今年度のみこういうことをするのか、これからも変わらずするのか。たまむし学童保育所でもこのように、同じように60人か80人の定員のところに90人ぐらい詰め込んだことがあると思います。かなり子どもたちも窮屈で、親としてもとても不満がありました。同じことをやるのはちょっとどうなのかなというがあるので、解決策があるのか、今年度はもう仕方がない、でも来年度も仕方がないよねというのでは、児童館のほうも学童のほうも利用者としては困るんですけども、どのようにお考えでしょうか。
橋本会長	たまむし学童保育所は、東児童館に併設の学童保育所ですね。
伏見児童青少年課長	基本的には児童1人当たり1.65㎡ということになってございます。それで、その1.65㎡の考え方については様々ありまして、登録された児童数で育成室の面積を割るのか、あるいは出席日数に応じて、例えば6日間開いているうちに4日間来ればその人は6分の4になるだろう、というような計算の仕方もありますが、本町についてはそういう計算をしても90人を入れれば当然1.65㎡を割り込んでしまうというのはあるかと思えます。 で、具体的な解決策というところではありますが、さまざま手段を今、市としても考えてございます。当然、これを永久に続けていくということは考えてございませぬが、来年度に向けての暫定的な措置を考えなければならない。タイムリミットがやはりありましたので、来年度以降について、また新たに学童保育所を建てるとなるとしても、やはり一定期間、2年、3年という期間はかかりますから、やはり暫定的には児童館のご協力を得てこういう形での判断に至ったというところでございます。よろしくお願いたします。
橋本会長	2年か3年はかかるんですかね。
伏見児童青少年課長	仮に建てるとしたら、それはかかってしまうと思えます。

橋本会長	いかがでしょうか。
中川委員	<p>いろいろやっぱり、2年、3年かかるとおっしゃったので、であるならば、やはり何か別の部分で、別のところでスペースをつくるだとか、公園でそういう部分をつくっていただけたらとか、何かやっぱり案を考えていただきたいなと思います。</p> <p>学童というのは減らないと思うんですね。この先もずっと増えていくと思うので、そこはどの児童館と学童でも考えなければいけないことだと思いますので、やっぱり早めにそういう、ちょっと処置していただきたいなと思います。</p>
橋本会長	何かの方法を考え出してもらわないと困る、というご意見だと思ひまして、ほかの方もうなずいておられるのですが。
伏見児童青少年課長	それについては当然、市として考えていかなければならない課題だと思います。今の時点でこうしますということは言えませんが、当然、何かしらの案というのは考えていかなければならないというふうに担当としては思っております。
橋本会長	<p>ほか、いかがですか。</p> <p>また次期の委員の皆様にも、これも我々委員としても申し送りのような形で引き継ぐところは引き継いで、こういう状況になっているからしっかり場所を確保する、あるいはその方法を何か考えるということを委員としても見守ってほしいというふうなことは引き継いで、委員の努力として引き継いでいただきたいと思ひますし、行政の皆さんも当然それは考えるとおっしゃっておりますので、それはお願いしたいと思ひます。</p> <p>それでは、これは報告でしたので、2件報告をいただきましたが、議題に入りたいと思ひます。</p> <p>平成29年度の小金井市児童館事業計画についてという議題に入ります。その前にということですが、去年11月に50周年事業があったということと、それから宮地楽器ホールでのじどうかんフェスティバルがありました。私は両方とも参加できなくて申しわけなかったんですが、参加された皆様のご感想があればいただきたいと思ひしております。ちょっと突然であり、また去年のことになってしまうんですが、何か特に印象あることがあれば、お願いします。</p>
関委員	<p>午後のダンスの発表会を見てきたんですけれども、場所がとても行きやすいので、普段、児童館と関係のない子たちも、ふらっと行って、ふらっと見られるような感じがあったから、よかったと思ひます。</p> <p>また、職員の方もスタッフとしてすごく働かれていましたし、子どもたちもいつもと違うステージと照明で、とても何か生き生きしてるような感じがしました。</p>
橋本会長	やっぱり場がいいということですかね。
関委員	何か雰囲気はちょっと違うので、体育館とは違うので、何かショーみたいな感じですかね。
橋本会長	ほかの皆さんいかがでしょうか。
中川委員	やっぱりいろいろな児童館のブース、設けてあって、何か盛りだくさんだったので、すごくそれを見てるのが、楽しかったんです。

	<p>あとやっぱりダンスだとかショーをやっているところで、1つちょっと思ったところが、演目に何々チーム、みたいなのが出てたと思うんですけど、そこに、どこの児童館で活動してる、という紹介が1つ何かあるとよかった。本町児童館、これは東児童館みたいなのであったら、全く児童館を知らないで入ってきて見て、何かいいな、あれ、と思った子が、どこで活動してるんだろうとなと思うので、ちょっとそういう説明が1つでもあれば、もっとわかりやすかったのかなと思いました。</p> <p>あとやっぱり、せっかくの駅寄りのところの場所だったので、何か、子どもがちょっと外で、じどうかんフェスティバルやってるよ、みたいな感じで、ちょっと声かけとかできなかつたのか。何かそういうのがあると、知らないで買い物に来た人たちも、あら、じゃあちょっとのぞいてみようかしら、なんて思ったのかななんて思ったので、建物の外で、じどうかんフェスティバルやってるよ、みたいな、何かそういうのがあると、もっと入ったのかと思いました。</p>
橋本会長	何かありますか。
田中児童青少年係長	はい。残念ですが、建物外での呼び込みはホールの運営上、できないことになっておまして。
中川委員	そうなんですか。何かせっかくだったのもったいないな、ちょっともったいない。
橋本会長	そうですね。山田さん、何かありますか。
山田委員	私も行って、すごいぎゅうぎゅうというか、人がいっぱいいて、子どもたちが一生懸命お店屋さん、お客さんもいるけど、やっているほうも子どもたちなので頑張ってる……思いましたけど。ダンスもみんなすばらしくてよかったです。
橋本会長	学校の体育館は体育館で、文化祭的な雰囲気があって、ブースというんでしょうか、出し物なんかもそれなりに行きやすいんですけど、その点は、今度の会場は大丈夫でしたか。
山田委員	うちは南児童館が近い、貫井なので。逆に、東とか緑とかでやられると、こっち側の方は行きづらいですよ。でも、ちょうど駅前で、真ん中だったので、行きやすさはあったと思います。
橋本会長	展示も体育館ですのと見劣りしないというか。
関委員	ブースのほうはちょっとやっぱり狭かったので、体育館のような感じではなかったです。
橋本会長	体育館だと自由に子どもたちの場所をつくれるんですよ。
関委員	迷路みたいな感じで何かこうつくれますから、それはできなかったの。
橋本会長	<p>はい。では、今のご感想をいただいたということで、本題に入っていきたいと思います。</p> <p>この資料についても事前に読んできていただくということになっておりますが、事務局のほうからご説明していただけることはありますでしょうか。</p>
田中児童青少年係長	前年度と、こちら事業計画につきまして、四館合同事業の部分でご説明をさせていただきます。

	<p>前年度と四館合同事業計画に大きな変更はございませんが、東児童館業務委託評価報告書（案）の作成に伴い実施したアンケートにおいて、小学生、中・高生、大人、全ての層で95%以上が通年で18時まで拡大された開館時間を、「ちょうどよい」か「短い」ということで回答していただいています。そういったこともございまして、他の直営館においても、学校長期休業期間を含めた「開館時間の拡大」を平成29年度は1年間かけて検討していくということで、その部分が若干変わってございます。以上でございます。</p>
橋本会長	皆さん、ご質問、ご意見があれば。
関委員	アンケートのほうにあったんですけども、東児童館ですけども、開館時間を延長してもらいたいというのがありました。ただ、小学生は午後5時まで…、これはどういう意味でしょうか。
橋本会長	東児童館は6時までですよ。木下先生。
事務局（木下職員）	小学校1・2・3年生までが5時で、それで、それ以上の上級生が基本的に6時まで。
橋本会長	毎日6時ですね。
事務局（木下職員）	はい。
橋本会長	そうすると、本町と貫井南と緑児童館について、延長を検討しようかというところですかね。来年も引き続きということ……。
関委員	アンケートの19ページ、「小学生は5時までにしてほしい。」とかっていうのは。
事務局（木下職員）	下のほうの質問16。これは中・高生世代が答えたアンケートだと思うので、子どもたちが、ちびっこたちに早く帰ってほしい、という意味だと。
橋本会長	<p>親に言いなさいということじゃないかと思いますが、このアンケートの意見は気にしないでいいと思います。</p> <p>なければ、私のほうから、全体的な運営の基本方針のところ、どうだろうなど思っているところがありまして、これも言葉にするのは難しいですけども、これは平成19年4月1日制定ということになっていまして、ほぼ10年がたとうとしているところ。それで、言葉にするのは難しいのは、とても小金井のこの4館はよくやってくれていると思いますし、ニーズに応じてやっている。これは直営館であっても、このたびアンケートがありました委託館であっても、大変評判が高いのだらうと思います。</p> <p>それは維持したいところですが、その一方で、新しい知恵とか新しい発想とかいうものを得る機会がどこまであるのかなということが少し気になることです。本来であれば、年3回こうやって会議している私たち児童館運営審議会の委員がそういうものをあるいは提供しないといけないのかな、とも思うんですけども、例えば工事中でスペースが狭くなってしまったときにはこういう工夫があるのだというようなことは緊急のことですし、そのほかにもこういうニーズが、新しい時代にこういうニーズがあるのではないかとか、やっぱりいろいろあると思うんですが、このページを見ても、いろんな目的を掲げて児童館事業をやっていると。子育てに関する相談や幅広い対応のためとか、保護</p>

	<p>者の主体的な活動を支援するためとか、子どもの自主性・創造性を育むために、地域の中・高生世代のボランティア育成のためというふうに、いろんな目的を掲げているんですが、こういう目的のためならこういう方法があるよという新しい知恵・発想をどのように得ていくのかということところが、小金井市の今、審議会がしっかりしていないせいもあるのかもしれないですが、欠けているのかなと思います。</p> <p>しかも、難しい、言葉にしにくいと言いましたのは、これは先生方の創意工夫を大事にしながらこれ進めていただきたいですし、指導員の先生方の夢を追う形で取り組まないと、よそのまちでやっているからやれみたいな、そういう方法ではうまくいかないものだと思いますので、すり合わせも難しいんですけども、制定から10年たって、どうやって外からの知恵をもらうか、外部講師であるとか、外部への見学に先生方が出掛けるとか、第三者の点検評価を得るとか、いろんな方法あるかなと思って、何かそういうことを、おそらく行政の側でも考えてはおられると思うんですが、審議会としても考えたほうがいいのではないかなということ、ちょっと次期に向けての遺言のようにもなりますけれども、そういうことをこの審議会で、もう少し頑張っているのではないかなという気もいたします。これは、基本方針に対する意見というよりは、審議会のあり方に対する意見になりましたが、そんなふうに思います。</p>
<p>松田委員</p>	<p>基本方針にかかわることですが、児童館、基本的には子どもたちの放課後を、豊かに時間を過ごすということだと思うんですが、そうすると、子どもの立場に立ってみると、まずは学童、さっきもありました学童があって、それから今学校では放課後子ども教室というのが入って、それからこの児童館ということになるんで、放課後子ども総合プランというのも策定されて、子どもたちの放課後をどう豊かな時間を創造するかという大きなテーマになっているので、今は児童館にかなりフォーカスして、児童館のフレームの中でいろいろお話をされていますが、その全体の中の役割分担とか計画というのがどんなふうになっていくのかということ、ここでも、のびゆくこどもプランとか全体的な計画の中での位置づけをされているんでしょうけど、そこら辺をもう少し明確にさせていただけると、先ほどの物理的な状況でいろいろどうしようか、という話が出てきましたけど、見えてくるのかなという気がしてますし、私も子どもたちに、じゃあ、これ、子どもがどんなふうに使分けしてるのかなとか、学童行ってる子は学童なんだろうけれども、何かそこら辺のうまく連携が、特に放課後子ども教室の新しいいろんな事業も出てきますから、どんなふうにできるのかなということ、これを気になるところです。これが1点目。</p> <p>2点目、小学校現場にいますので、その立場から。当然、子どもを対象にしますので、ただ、その子どもたちが、今言われました、これ19年最初に制定されて、大きく大きく変わっていることで、このいろんな魅力的な事業を見るんですが、学校では、今、気にしているところは、食物アレルギーを心配します。ですからいろんな、クッキー作りとか、ぱっと出てくるけど、すぐに小麦大丈夫とか、出てくるんですね。</p> <p>アレルギー対応と、それからもう一つは、子どもたちの関係性というか、す</p>

	<p>ごくやっぱり気になるところで、学校でもいじめの問題とかあって気にしますが、結構、放課後の関係の中でそれを引きずって学校に来たり、逆に学校のをそっちに引きずったりというところがありますから、その関係性をどう把握するかということと、もう一つ、発達障害の子がすごい多いですね。そこら辺をやっぱり、これ職員の育成とかの問題になってくるんですけど、そこら辺の研修なり意識をしっかりと育てていただきたいというのが、やっぱりどこかに入れておくといいのかなと。</p> <p>それから3点目、これも言われたことですが、内容を一度見直されたらいいかなというのが1つあります。特に、「小学生の活動は、子どもの意見を取り入れながら」とあるんですけど、一生懸命やって、すごく魅力的なものもあるんですけども、今の子どもが活躍する20年後、やっぱりどうしても、私が思うのは、STEAMって、サイエンス、テクノロジー、エンジニア、アート、マスマティクス、STEAM教育って今すごく大きく次の世代に向けて大事なコンテンツ、内容になっていると言われていたんですけど、そういう科学技術なりこれから将来に向かうようなコンテンツが出てくると、魅力があってより参加していくのかな、という気がしました。すいません、以上3点。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。STEAM教育はサイエンス、テクノロジー、エンジニア、アート、マスマティクスですね。そういう科学技術関係の教育。ただ、内容が大変では……。</p>
松田委員	<p>どちらかという、これまでずっと積み重ねてきたものをうまく踏襲しながら、それにアレンジを加えて、というんですけど、ちょっと失礼になっちゃうけど、昭和のコンテンツですよ。でも、子どもたちが生きていくのは、その20年後のコンテンツって何かということを考えていただくといいかな……。</p>
橋本会長	<p>ほかの皆さんご意見いかが……。</p>
吉田委員	<p>先ほどの学童と児童館の放課後子ども教室という話も、放課後の子どもの居場所ということだったんですけど、放課後子ども教室に関しては、活動がボランティアなので、ちょっとまた違うのかな、という気がするんです。</p> <p>あと、やっぱりその内容に関しては、もちろんそういう、サイエンスとか取れ入れるのは、多分、子どもはとても食いつきます。ただ、食いつきますが、それも1つのプラスアルファであるといいし、ただ、ほんとに昭和もそこに残しておきたいっていうのもあって、昭和の親としては、もちろんそれもあるんですけども、そういうものだけじゃなくて、やっぱり今の子どもたちがちょっと上の学年、児童館だと縦のつながりもあるので、上の学年と遊んでたら何かこう泣きながらそこでボール取られたとか、そういうやりとりがやっぱり必要じゃないのかなっていう気もしますし、その要素をなくさずにうまく融合していけばいいかな、ということです。</p>
橋本会長	<p>2人のご意見ですごくバランスがよくご意見いただけたと思います。ありがとうございます。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>私も2人の委員の方が言われた観点から、今後の児童館は、10年後、20年後に向けてどうつくれるのかなということを思うことがあるんですけど、指導</p>

	員の先生方には研修というのがありますよね。そういうのは大分引っかかってくるのかどうなのか、お答えいただけるかな。大嶋先生、いいですか。
事務局（大嶋主査）	<p>本町児童館、大嶋です。職員研修は、やはり発達障がいのお子さんとか、いろいろ困難を抱えたお子さんとか家庭に対してのソーシャルワークの技術ということで、児童館の職員研修のほうでやっております。</p> <p>食物アレルギーも非常に大事な問題なので、やはりそれも専門家の方に来ていただいて研修をしまして、エピペンの使い方とかそういった面でも実地訓練を演習でしています。児童館で起きがちな怪我の対応とか、AEDとか、そういった訓練の研修も入れてますので、現在に合うような研修で必ず最新の知識を得るようには、年2回研修しております。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。そういうことを踏まえつつも、今後の児童館をどうするのかということ、どこかで検討してくださるといのはとてもありがたいなと思いますので、これも次期の委員の皆さんに引き継ぐ方は引き継いで、次期の方、随分宿題を背負わすようですけども、それも大事なことかなと思います。</p> <p>それと、松田委員からもご提案がありましたけれども、全体の中でどうやって役割分担を考えていくのかということも、今、時代的にもとても大事ですし、多分、教育委員会のほうでは総合教育会議というのを招集しておられますね。それで従来、教育委員の方だけで毎月集まっていたのが、市長さんも交えて教育委員の方がこういう場で会議を開くという、総合教育会議というものを必ず自治体は置かないといけなくなりましたので、まちによってはそこで随分と市長さん、それから教育委員の方、事務方が今どこまで並ぶかというのがまちの違いなんですけれども、そのところに、おそらく教育委員会筋ではないので、子ども家庭部関係は呼ばれてないのかもしれませんが、これもまちによって対応は違いますけど、できればそういうところにも参加する形で子どもたちの共通の問題を議論していただくことができれば、学校と子ども関係の、学童保育や放課後子ども教室であるとか児童館などが、全体しながらいろんな共通の問題も、縦割り・横串、両方考える中で検討できるので、そういう方法もあるということは強調しておきたいなと思っております。</p> <p>いかがでしょうか。個別の各館の事業計画についてもご意見いただいて結構ですので、合同事業計画と、それから各館の……事業計画……。</p>
山田委員	事業計画で、28年度と、見たら、何か似たりよったりだったんですけど、ここは違うよというところを教えてくださいたいです。どこの児童館も同じことが書いてあったので。
橋本会長	毎年、会長のほうからそれをお願いしているところで、それじゃあ全部説明していただかなくても結構ですので、ここだけは特に重点だと、変更したというところがあれば、1つ、2つずつでも、いきなり振って恐縮ですけど、大嶋先生から順に言っていただけますでしょうか。
事務局（大嶋主査）	本町児童館で新年度、新たに取り組みたいところは、1の乳幼児と保護者に対する事業の（4）の父親の子育てへの参加を支援するための事業で、今回、リズム遊びの講師をお願いして、交流会でリズム遊びをやったのですが、今年

	<p>度は6回でき、来年度は8回、人気がありましたので増やしてやっていきたいと思っております。</p> <p>次に事業予定一覧の表ですけれども、裏のほうでヒップホップ・ダンススクールというところで、今年度のフェスタのステージで、スクールの子どもたちが、すごく自信を持って踊ることができ、今も小学生と中・高校生が時々練習をしているので、これも自由に練習し遊べる回数を増やして、通常からダンスの練習ができるようなスペースを増やしていきたいと思っています。ダンススペースがそうですね。</p> <p>高学年グループ遠足で、今まで主に家庭科女子グループを中心に行っていたのですけれども、高学年グループ遠足ということに発展させて、男子女子両方のメンバーを連れて遠足に行きたいと思っています。</p> <p>各種ゲーム大会というところで、土曜日と学校休業日にカードゲームやベイブレードゲームということで、男の子に人気があるゲーム大会を入れていきたいと思っています。</p> <p>ランチ会タイムということで、学童保育所から卒所してきた4年生ですとか、あとは普段は学童保育所に行っているけど、土曜日は児童館に友達と来たいという子どもが、昼休みに、結構お弁当を持ってくるので、みんなで会食会ができるような感じで、ランチ会タイムというのを企画してやっていこうと思ってます。</p> <p>主立った行事は以上です。</p>
橋本会長	ありますね、新しいことが。ありがとうございます。東児童館、木下さん。
事務局（木下職員）	<p>木下です。よろしくお願いいたします。先日も児童館の子ども縁日がありまして、約400名の親子の皆さん、小学生、中学・高校生、大学生も来ていただいて、大きな盛り上がりを見せたんですけど、やはり児童館をベースとした地域との連携をより一層、29年度は深めていきたいと思ってます。夏期クラブも、7月のところで、子どもたちが集まりやすいところで60名、毎年集まってやっているんですけども、28年度は地域のお店の幾つかをご協力いただいて、大型カルタをつくって、そこのお店の前に飾らせていただいたり、東小金井の駅もnonowaさんにご協力いただいたりして、地域とその子どもたちがカタルを受け取りにいろんなどころに出掛けていく。そういう催し物を企画しました。</p> <p>それから、青少年健全育成東部地区委員会が縁日を4月に行うんですけども、雨のときは東児童館の館内を全部使って行います。地区委員会とは、餅つきとかいろんなことを通しながら、皆さんと大分、顔を覚えさせていただいたので、より深くいろいろ地域の方と連携しながら、児童館の子どもたちにとっても役立つ、あるいは先ほどお話ありましたように、大人の方々と子どもとももう少しつなげていく、そういう場であればいいかなと思って、そこに力を入れたいなと思っております。</p> <p>1つ変わりましたのが、一覧表の中にあります、3ページ目になりますでしょうか、幼小中対象のH I G A J I あーと&かるちゃーという、これはこの間まではダンスダンスでした。大学生の方に3人ほど来ていただいて、ダンスを</p>

	<p>希望の小学生たちへ指導してもらい、遊戯室で踊って時間を過ごしたんですけども、もっと芸術的に広がるができないだろうかということで職員も考えまして、今度は音楽とか絵画とか、もっともっとダンスから他へ広げていく、芸術の分野で何かそういう子どもたちと触れ合うものも用意できたらいいかなと思っています。とりあえず大きなポイントはそこかと思っています。よろしくお願ひいたします。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。貫井南、山田先生、お願ひします。</p>
事務局（山田主任）	<p>貫井南児童館の山田です。貫井南児童館で変わった部分だけご説明いたします。まず、乳幼児と保護者に対する事業です。貫井南児童館は、東児童館、緑児童館と違ひまして、乳幼児の専用室がございませぬので、1つのワンフロアを、小学生の時間とか、乳幼児の時間とか分けて使っています。それで、今年度、その利用の様子を見ていますと、乳幼児の事業が、午前10時半から午後2時まで行っているんですけども、ちょうど小学生の利用時間とかぶってしまうので、乳幼児のご利用の方たちに申しわけないんですけども、30分前倒しということで、午前10時から午後1時半までということで、今まで10時半から午後2時だったのを、30分繰り上げて同じ3時間半ということで行うことにしました。</p> <p>乳幼児のつどいは月・水・木だったものを月・水・金と、中・高校生の行事との関係で曜日変更をいたしました。</p> <p>小学生に対する事業です。小学生に対する事業は、特に変更はございませぬ。ただ、小学生と中・高校生にまたがるんですが、学校の長期休みですとか土曜日ですとか、なかなかお昼を持ってこない、もう朝からずっと児童館にいるという子が多いので、みんなでクッキングというのを試行で10回程度行うことにしました。小学生の低学年、3年生ぐらゐまでですと、家庭のほうで昼のお食事は面倒見てくださることが多いんですけども、4年生以上、中学生、高校生などでは結構、食事が、したりしなかつたりとかいうお子さんも多いので、そういう子たちに声をかけて、申し込み制なんですけれども、アレルギーにちょっと配慮しながら、食育の事業としてやっていきたいと思っています。</p> <p>あとは、中・高校生は、今のところ月に2回の開館延長をしていまして、今年度はどうするか、まだ検討中ですが、できれば、年度内のどこかで毎週金曜日ということに変えていきたいと考えております。</p> <p>幼稚園児の世代の子どもたちの活動なんですけども、毎年、幼児グループと違ひまして、2歳、3歳のお子さんと保護者の方にご協力いただきまして、そのOBの方たちに幼稚園児世代の活動をボランティアでやっていただいています。それで、毎年毎年、今年の幼児グループの方が来年度の幼稚園児の活動のボランティアにかかわるように計画しているんですけども、来年度については2つの幼稚園児の保護者のグループが立ち上がっていまして、そういった方たちと幼稚園児世代の親子の行事を盛り上げていきたいと思っています。</p> <p>また、利用者懇談会のほうで、幼稚園児世代の居場所がないということもいろいろ聞かれましたので、夏休みの水遊びとか、少し幼稚園児の子たちも親子で利用できるような機会を設けていきたいと思っています。以上です。</p>

橋本会長	ありがとうございます。
田中児童青少年係長	<p>緑児童館につきましては、本日、担当の森が欠席となっておりますので、かわりに概略を説明させていただきます。</p> <p>乳幼児と保護者に対する事業は、平成20年度から地域の子育てをつなげていこうというテーマに基づいて行っている先輩ママ事業がそのまま継続という形です。小学生に対する事業、中学生世代に対する施策その他につきましても、基本的には前年度踏襲です。</p> <p>変更点といたしましては、表の2つ目のところ、右側のページの下になりますが、ボランティア企画行事、「昨年度の夏期クラブを契機に作られた、大学生世代のボランティア組織と共同して、季節行事等の事業を行う。」というのが、月1回程度、企画される形になっています。また、自主グループの交流事業というところで、年1回程度、自主グループの方と共同で企画して、地域の交流を目的とした事業を行っておりますけれども、29年度につきましては、のみの市の中で行うという変更が予定されています。ダンス教室の部分では、5月ごろから不定期という形で、現在、講師選定中という形になっておりますけれども、児童館フェスティバルの出場を目指したグループでのダンスチームをつくるためのレッスンは加わってきています。以上です。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ご説明、ありがとうございます。ご意見をいただきたいと思いますので、お願いいたします。</p> <p>それぞれの館で、指導員の先生方、スタッフの方が、子どもや大人を見ながら事業を展開してくださっているので、先ほど吉田委員も言われましたが、他でいいものやっていたら、どんどん取り込もうということで、全部横並びになる必要は必ずしもないですけれども、やっぱりいいものは、どんどん増やしていただくという印象を持っています。児童館フェスティバルも一つのきっかけになって、フェスティバルを目標にしながら、何か行事を組んだり、練習をしたりということが増えているというのは、とてもうれしいなという気がいたします。</p> <p>その中で、どんどん新しいことを、地域の特性、指導員、スタッフの特性を生かしてやっていただくのも結構なことなので。これで大筋、いい企画を立ててくださっているなという印象を持ちました。</p> <p>どうぞ、関さん、お願いします。</p>
関委員	先ほどの松田先生が言われていたサイエンスとか、そういったところを取り入れるためには、予算のほうも必要になってくると思ったりしました。
橋本会長	そうですね。予算の問題、それから、STEAMですか。STEAMに関係することも、事業をよく見れば既にあるんじゃないのかなとも思うんですが、関さんとしては、今のご意見の中では。
関委員	そういったテクノロジー関連は、やはり予算がないと。
橋本会長	予算が要りますでしょうね。
関委員	予算がない以上は、こういった形になるのかなと思っているんです。
橋本会長	そうですね。予算が先か、計画が先か、ニワトリと卵のような関係ですが。

	布目さん、お願いします。
布目委員	<p>児童館の事業ではないですけども、農工大での科学教室みたいなものが市報に時々出ていますよね。定員もあるし、あまり低学年のお子さんを対象ではないものも多いですけども、例えばそういうところのノウハウを各児童館で取り入れるのに、学芸大の学生さんとか、農工大の学生さん、法政も工学部ですから、学生さんに、もうちょっとプッシュしてみて、年に一、二回でもいいから、そういう方たちに来ていただいてという方法も、少ない予算の中でやる手法ではないでしょうか。</p> <p>結構、発表の場所とか活動の場所というのを探していらっしゃる学生さんもいるということも昔聞いたこともあるので、条件があるのかもしれないんですけども、例えばそういうお話をして、年に一、二回でもボランティアで来ていただけませんかということをお願いしてみるのも、一つの方法かなという気がします。</p>
橋本会長	それはおもしろそうですね。はい。
中川委員	私も同じことを考えていて、やっぱりこれだけ大学に囲まれている地域というの少ないと思うので、そういう学生の方たちを取り込んだら、もっとおもしろいことが、予算をそんなに使わずにできるのかなと思っていて。私も個人で、1回、武蔵野の別の方に、何かそういうので、学校で、もしやるとしたら、どういう形でお金とか、という話をしたことがあるんですけども、そのときは、もう交通費だけでいいんですとかって学生の方がおっしゃっていたので、もしかしたら、予算はそんなにかけずにやっていただけるのかなと思います。
橋本会長	そうですね。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。
吉田委員	もう一つ思ったのは、いろいろな児童館があって、でも、子どもたちが行く児童館というのは決まっているじゃないですか。逆に、ほかの児童館に行けない分、例えばほかの児童館でこういうことがすごく人気があるよ、とかいうイベントですか、イベントをちょっと今回は、じゃ、東児童館でやっているこれをやってみようか、うちの児童館でとか、何か違う児童館で人気のあるものをやってみるとか、そういうことも、おもしろいのかなと思います。
橋本会長	<p>それは、もうやっておられるかもしれませんね。ただ、それを全部やると、また全部横並びに、一緒になるということもありますけれども。ただ、それは結構やっておられるんじゃないかなと思うんです。情報交換をされているかと思います。</p> <p>ただ、子どもレベルから、よそを体験してみて、あれをやってよみたい、というなのは出てくるとおもしろいなと思いますし、今回はこういうアンケートがありましたけれども、アンケートがあると、よその児童館はこういうふうにご利用者から見られているんだということがわかって、これはこれで、よその直営館にとっても、いい資料になるんだろうなとは思っています。</p> <p>それでは、いろいろアイデアも出まして、これを実現するには大変なものもあるかもしれませんが、あくまで一つの意見、情報として聞いておいていただければいいのかなと思います。</p> <p>では、この計画につきましては、皆様、ご承認ということでよろしいでしょ</p>

	<p>うか。</p> <p>（「異議なし」の声あり）</p> <p>では、これは私どもの会議として承認させていただいたということで、この議題は終了させていただきます。</p> <p>では、そのほか、あと10分ほどの時間の中で、皆様から、この2年間の振り返りといいますか、今後の児童館及び児童館運営審議会のあり方、また、求めるものなど、振り返っていただければと思います。</p> <p>じゃ、ご着席順で布目さんから。</p>
<p>布目委員</p>	<p>はい。布目です。民生児童委員の子育て支援部会部長という立場で、この2年、出させていただいたんですけれども、子育て支援部会というのは、実はお子様対象ではなくて、子育てをしていらっしゃる保護者の方たちをどう支援していくかという、子どもさんのことに関しては、学校なり、保育園なり、児童館なりで、市でも、いろいろ施策を立ててやったださっているの、子育て支援部会というのは誰を支援するんだといったら、今、子育てを現にいらっしゃる保護者の方を、どういうふうに支援していったらいいんだろうかというのを、私たちの部会でも模索していたんですけれども、支援を必要とされるかもしれない保護者の方たちと、実はお会いする機会というのが非常に難しいんですね。</p> <p>お仕事をしていたり、ご家庭の事情がいろいろあったりということで、問題を抱えていらっしゃる家庭の保護者の方に、じゃ、何が問題ですか、どうしてほしいですか、まず、そういう場を設定すること自体がほぼ不可能に近いので、ほんとうにいろいろ模索して、何か方策がないかというのを、ここ3年間、ずっと考えていたんですけれども、子ども家庭支援センターで、ゆりかごカフェというのをしていたら、月に1回、いらした方のお子さんを見ながら、お母さんたちとちょっとお茶を飲んで、お話しをするという時間が、私たちの任期のときに中止になってしまっていて、そのゆりかごカフェというものの活動がなかったものですから、エプロンだけ引き継いで。そこが続いていけば、月に1回ありますので、みんなで交代して行って、そういう保護者の方とお話をする機会に、今、子育てでこんなことを悩んでいますとか、周りに心配なお母さんがいて、というお話を伺うチャンスがあったかもしれませんが、全くなかったものですから。それで、今年度から復活するんですね。だから、また新しい子育て支援部会になられた方は、月に1回程度、4月からだと思いますけれども、ゆりかごカフェが復活しますので、そういうところで、いろいろお声を伺うことができればいいかなと思っています。</p> <p>私個人的には、児童館4つ、前にもお話ししたんですけれども、いろいろ活動させていただいたり、見せていただいたりということで非常に親近感を持っているんですけれども、小金井市内といっても、地域の特性というのがすごくあって、何となく、同じ小金井市内でありながら、雰囲気が違うとか、ここはこういう特性があるから、というのがあつたもの、児童館の運営に関しても、保護者の方の考え方とか、お子さんの声を取り入れてやったださるんだらうなというのはすごく感じるの、同じような企画をされても、全く</p>

	<p>同一の事業になるか、といたらそうはならないところがある、生き物だなというか、そこがいいんじゃないかなと思っています。</p> <p>よりよく児童館がなっていくために、周りの方がいろいろご意見を言っただくことがすごく大切だなというのはしみじみ思っていますので、運営審議会でも率直なご意見を皆様が出してくださっているのはすばらしいと思って、いろいろ拝聴させていただきました。ありがとうございました。</p>
橋本会長	ありがとうございました。関さん、お願いします。
関委員	<p>関です。この2年間、その前を含めると4年間になるんですけども、ありがとうございました。</p> <p>途中、傍聴の意見があって、もうちょっと闊達な意見ということも言われていましたので、そこから私も気を引き締めて、この会議に臨んでいたんですけども、最後、気にかかるのは本町児童館ですけども、子どもにとっては遊ぶスペースというのは大事ですので、そこが学童と児童館との兼ね合いというのが、ちょっと心残りではあります。ありがとうございました。</p>
橋本会長	ありがとうございます。じゃ、吉田さん、お願いします。
吉田委員	<p>2年間、どうもお世話になりました。ありがとうございました。</p> <p>この場に出させていただいて、やはり児童館のあり方だとかというのを、ほんとうに広い視野で見せていただくことができて、非常に自分では有意義な2年間だと思います。</p> <p>先ほども松田先生がおっしゃっていたように、子どもの放課後の居場所というのは、やっぱり学童であり、児童館であり、放課後子ども教室とか、そういうものがたくさんある中で、それぞれが活動するのではなく、そこが連携をする。うまく連携をしていけば、例えば学童がほんとうに人数があふれていても、いっぱいであっても、緑児童館しか私は存じ上げませんが、この日の読み聞かせは学童も来ていいよとか、そういうふうに少し融通をきかせていたりとか、あとは、放課後子ども教室に、学童の子ももちろん来ていいことになっていますし、おそらく登録、あるいは出席の数よりも、その日、随分流動的になっているのではないかなと思っています。うまくそうやって、子どもが自由に行き来できる安全な場所がもっと増えたらいいかなと思います。どうもありがとうございました。</p>
橋本会長	ありがとうございました。
中川委員	<p>2年間、ありがとうございました。</p> <p>私は、ほんとうの一保護者として、今まで参加していたんですけども、今回、審議委員として、ほかの児童館のことだとか、私が見えなかった部分ですね。児童館の先生たちも、いろいろな工夫をされているというのがわかりましたし、一保護者で行ったときには、やはり児童館を見て、ちょっと古いな、汚いなとか、そういう目でいろいろと見るところがあったんですけども、やっぱりいろいろ話していると、予算の問題ですとか、いろいろな部分で苦労されながら児童館をやっているんだなというのわかりました。</p> <p>私もそうだったんですけども、やっぱり児童館ってすごく癒される場所だったり、子どもがちっちゃいときは相談して、ちょっとほっとする場所だった</p>

	<p>りという場所なので、それはとてもすごく、今のお母さんたちもそれは同じだ と思うので、そういう場所を大切にしていきたいですし、子どもたち、小 学生とかの子どもたちも、先生たちがよく話してくれるしとって、先生が好 きだから行くというのもあると思うので、やっぱりこういう児童館はとても大 事だと思いますので、うまく、これからもそういう形はとっていただきたいと 思います。</p> <p>いろいろな問題はあると思うんですけれども、私は本町児童館によく通っ ているので、本町児童館は学童との問題もあると思うんですけれども、その中 で工夫をしていただいて、楽しく、子どもが、何か遊ぶスペースがないから行き たくないとかと言わないような楽しいことを考えていただけたらなと思いま す。</p> <p>ちょっと残念なのは、何かと新しいことというのを、ほかの地域ですか、小 金井市じゃないところの児童館というのを見ることができなかつたので、そう いう時間があつたら、またちょっと違ったのかなと思いました。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p>
橋本会長	ありがとうございます。山田さん、お願いします。
山田委員	<p>2年間、ありがとうございます</p> <p>今までは、貫井南児童館しか行ったことがなくて、ほかの児童館を見て初め て、おお、こっちがいいなとか、貫井は貫井でいいなと思う部分もあって、す ごく勉強になりました。</p> <p>事業計画とかを見て、また新しいのを一生懸命、先生方が考えてくださっ ているんだなというの、全部を見てみないとわからないので、ほんとうに今ま では南だけを見て、同じだなとか、そういうのを思っちゃうので、いろいろな ところを見られてよかったと思います。また、うちは下が生まれたので、また 0歳から児童館を使わせてもらいたいと思います。以上です。</p>
橋本会長	岩重さん、お願いします。
岩重委員	<p>岩重です。2年間、ありがとうございます。</p> <p>私も、ほかの児童館を見たこともなかったりしたので、今回、すごくいい経 験をさせていただいて、ほかの児童館の先生たちのお話も聞けて、ほんとうに、 いろいろ考えて運営されているなというのを実感しました。やっぱり子どもた ちが、安心して、安全に遊ぶ場所という保護者視点からの意見が多かつたん ですけれども、そういう意見が聞けたことも、とてもいい経験だったなと思いま す。</p> <p>ただ、これからも、今の現状維持はもちろんで、スペースの問題とか、今よ りもっとよくなることを希望していきたいなと思います。これから、多分、地 域の一員としてかかわっていくことになると思うので、ほんとうに地域との関 係を大事に、予算も、そういうところで、地域の人たちの協力を得たりして、 あまり予算がなくても新しいことができような、そういうふうな児童館になっ ていってほしいなと思いました。ありがとうございます。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今回、新井職務代理の意見が聞けないのが残念ですけれども、私から二人分、</p>

言わせていただこうかと思えます。新井職務代理とは6年間一緒に務めさせていただいてきました。2つ、心がけたことがありまして、1つは、委員の皆さんとのやりとりが盛んになるようにということで、皆さんのメールアドレスまで聞き出して、いろいろ合間合間で連絡しようと思ったんですが、これも計画倒れに近くて、あまりそれもできなかつたなと思えますが、アイデア自体は悪くなかつたと思えました。

それから、もう一つは、議事録に発言が載るんだということで、皆様に名前を言うていただいたり、きちんとした言葉でしゃべっていただくように、そういうふうなお願いをしました。それはいいことだったかなと思えます。

ただ、その一方で、積み残したのものも多いかなと思つたものが幾つもありまして、まず、ほんとうに必要なお子さん、親御さんに、どれだけサービスが行き渡つてゐるのか。これは何回も何回も、話には出るんですが、具体的にちゃんと見積もりができたことがありません。これは我々が見積もつてもいいわけですし、行政の方が見積もつてもいいわけですが、なかなかその手間がなく、今もできていないわけですね。行政は行政でやつてゐると思えますけれども、私たちも、もう少しやるべきだつたのかなという気がいたします。

それから、外部の意見、外部からの刺激というものを、伝統的によくやつてゐる小金井市の中で、どのように取り上げていくかということも、なかなか難しい問題で、これも歯が立ちませんでした。

それから、3つ目には、業者委託ということにかかわつてくることがあつたわけですが、その中では、よい職員を抱えた事業者を選定する、その一助を果たすことができたかなというふうに思えますし、また、今後も、とにかくよい職員を抱えた事業者というものを大事にしていきたいなという希望も、ここで感想として述べておきたいと思えます。

また、よその市の例を調べるとき、ほかの事業者を調べに行くときにも、やはり、よい職員を抱えているか、しっかりした事業展開をしているかというところを、まず第一に視察、現場を見ていただきたい。そうやつて、よい事業者を小金井市にどんどん呼んできていただきたい、そんなふうに思えます。

年3回の会議ということで、限界もありまして、何よりも、次の会の間までに、前の会議の内容を忘れちゃつたり、意識が途切れるんですね。それが一番残念で、メールでつないだり、忘年会でも企画してつなげばよかつたんですが、この2年については、それがあまりできていなかったということで、また来年度は来年度の会長さんが選ばれるんだと思えますが、その方にも、しっかりその辺は引き継がせていただこうと思つてゐます。

私にとって一番ありがたかつたのは、委員の皆様が率直で、しかも、実のある意見を言うてくださるということで、これはもうひとえに事務局の皆さんも、いい委員を集めてくださったということで、児童館行政には大変いい影響があつたのではないかと、自画自賛になりますが、思えます。

その一方で、やはり見落としたものも随分あるなと思えますし、今日のこういった報告書についても、十分に、それを再評価できるだけの能力も持っていません。その辺は忸怩たるものはあるわけですが、制限の中で活動させていた

	<p>だけで、研究者としても、自分の大変参考になる部分が多かったので感謝しております。</p> <p>事務局の方にも、委員の方にも、それから、時折いらっしゃってくださった傍聴の方々にも感謝しておりますし、議事録を読んでくださっているであろう議員の方、市民の方、児童館研究を志される方にも感謝を伝えておいて、これを議事録に載せていただこうと思います。皆様、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、予定していた議事をほぼ終えているわけですが、何か特にとということがありましたら、ご発言をいただければと思います。よろしいですか。</p> <p>それでは、事務局のほうで何かありましたら。</p>
<p>大澤 児童青少年担当部長</p>	<p>児童青少年担当部長の大澤でございます。本日は、午前中に公務がありまして、途中からの参加で大変申しわけございません。</p> <p>まず、きょう報告をさせていただきました東児童館の報告書の関係につきましては、本日いただいた意見をもとに、最終的にはまた検討委員会を再度開きまして、最終的に市のホームページに掲載させていただきたいと思っております。</p> <p>それと、本町児童館、これほどこの児童館も同じですけれども、学童保育所の大規模化というところです。これにつきましては、我々の今、喫緊の課題でございます。これは本町に限らず、緑児童館も同様の形で起きていまして、特に、第三小学校、緑小学校の周辺の人口が増えてきているところで、そもそも生徒の数が増えているという現状がございます。</p> <p>そういった中で、まず、基本的な考え方といたしましては、今現状、児童館が私の所管というところもございまして、そちらのほうを前提とさせていただいて、あいているところがあれば、なるべくそこを活用させていただきたいというところが、まず基本的な形です。</p> <p>ただ、必ずしも、これがいいというわけではなくて、当然そこに入れない方がいらっしゃればどうするか、という問題もございまして、そういったところも含めまして、この大規模化の解消に努めていかなければいけないかと思っております。その反面、今、さまざまな方からも、基本方針のお話があったかなと。児童館が求められている役割も、やはり年々変わってきている部分があるかなと思っております。児童館自体、0歳から18歳までの事業を基本方針に落としまして、毎年、職員が基本計画を考えているところでございます。また、行政の中でも、ダブっているものもあったり、さまざまところで、市全体として行っている部分があります。また、さらに南小、一小地区の児童館用地、それも一つまだ解決がされていない問題があります。児童館自体の見直しというものも、また別に、市長部局のほうからも求められている部分がございます。</p> <p>的確に市民サービスの向上に努めるというのが我々の仕事でございます。ただ、全てができるわけではなくて、どれかを切り離さなければいけないというところもございまして、先ほど皆様方からご意見かありました基本方針、そちらも十分吟味しながら、今後の新たな、本市として、10年、20</p>

	<p>年、どのような形で児童館を運営していったらいいのかというところが次に お願いする委員さんの課題でもあり、我々も、早急に努めていかなければい けないところかなと思ってございます。</p> <p>改めまして、この2年間、皆様方におかれましては、さまざまなご意見を 承り、ありがとうございます。また来年度も引き続き、本日いただいている 意見等を踏まえまして、よりよい児童館の運営を目指していきたいというと ころで、私の挨拶にかえさせていただきたいと思います。本当にありがとう ございました。</p>
橋本会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、平成28年度第3回児童館運営審議会を終了します。どうも長い 間ありがとうございました。</p>